

時計づくり講座：職人体験をしてみよう！（報告書）

開催日時：平成 21 年 12 月 5 日（土） 14:00～16:30

開催場所：名古屋工業大学 2 号館 1 階 F1 講義室

参加生徒数：32 名 + 小学生以下の保護者・その他

主催：豊田工業高等専門学校 戦略的大学連携室

共催：名古屋工業大学、愛知工業大学、大同大学の戦略的大学連携室

協力：NPO 法人 時計 BUNKA

講師：末松良一（豊田工業高等専門学校長）

内容：人の生活と時計の歴史のお話し

講師：成瀬拓郎（NPO 法人 時計 BUNKA 理事長）

内容：ゼンマイ式時計のお話しと時計づくり

名古屋工業大学、愛知工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校の4機関で推進されている「戦略的大学連携支援事業」の一環で、豊田工業高等専門学校で企画した「時計づくり講座」が 12 月 5 日(土)名古屋工業大学において、開催されました。

当日は、あいにくの雨の中でしたが、小学生から中学生までの多数の受講生が会場である名工大 2 号館 1 階の講義室に集まりました。

最初に、豊田高専末松良一校長の「人の生活と時計の歴史のお話し」がありました。「振り子の実験」によって、周期と振り子の関係を学びさらに、昼夜の温度差を動力として動作する時計や、重力を動力として動く時計など、貴重な時計をいくつも実際に動かしながら、時計について学びました。

お話の最後には、「現在、私たちが使っている時計は、1 日を 24 等分する定時法ですが、日本では、明治の始めまで、人間の生活感覚に合わせ日の出を明け六つとして昼間の始まりとし、日没を暮れ六つとして、夜の始まりとする、その昼間を六刻、夜間を六刻と昼夜の一刻を季節毎に変化させるという、不定時法が用いられており、そのために、和時計には、二つの天符(テンブ)がつけられていた。」という、日本独特で世界的にも貴重な遺産である二丁天

符和時計を実際に動かしながら、「おやつ」の鐘の音を聞くというサービス精神満点の実演入りのお話に聞き入りました。

その後、NPO 法人 時計 BUNKA 理事長の成瀬拓郎先生から、「ゼンマイ式時計のお話と時計づくり」と題して、ご自身と時計との関わりも交えて、お話をしてもらい、続いて、実際にプラスチック製の時計キットを各自、製作しました。ここでは、各連携校の学生に、受講生の時計づくりのお手伝いをしてもらいました。



人の生活と時計の歴史のお話し



歴史のある時計のお話し

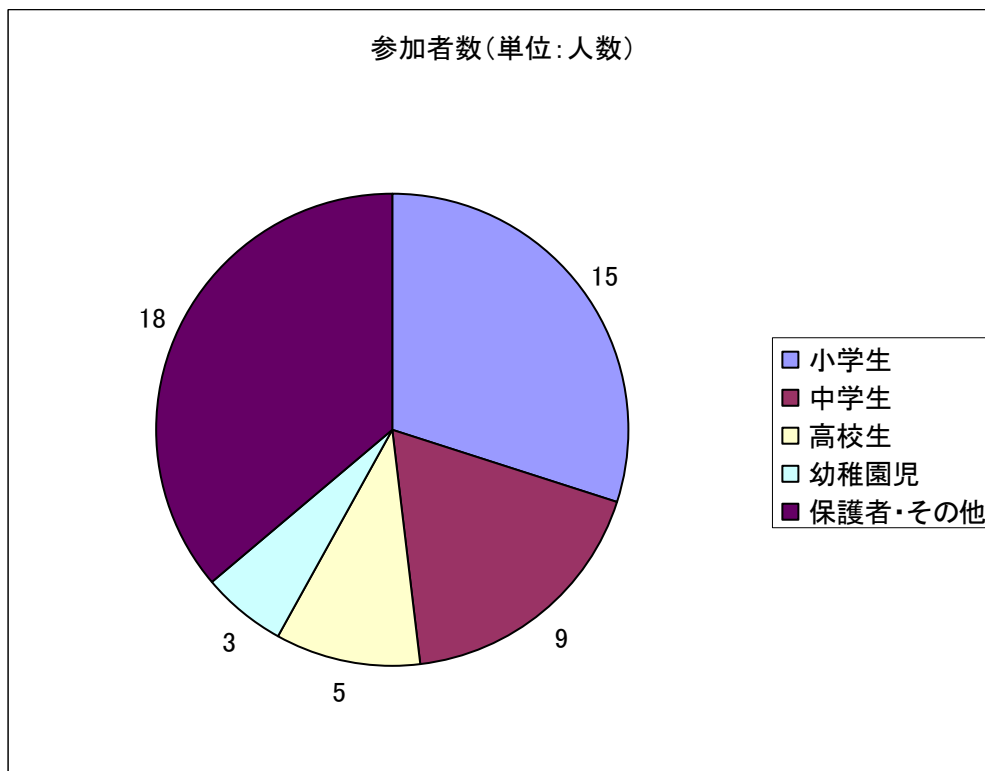


時計づくりのお話し



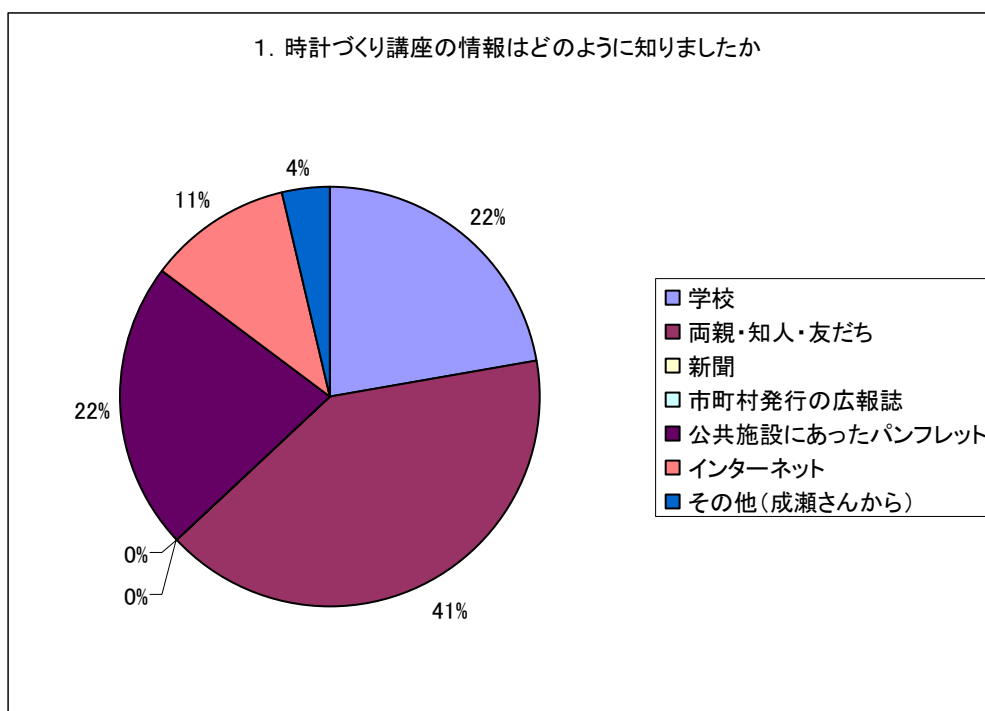
時計キットの製作中

参加者数

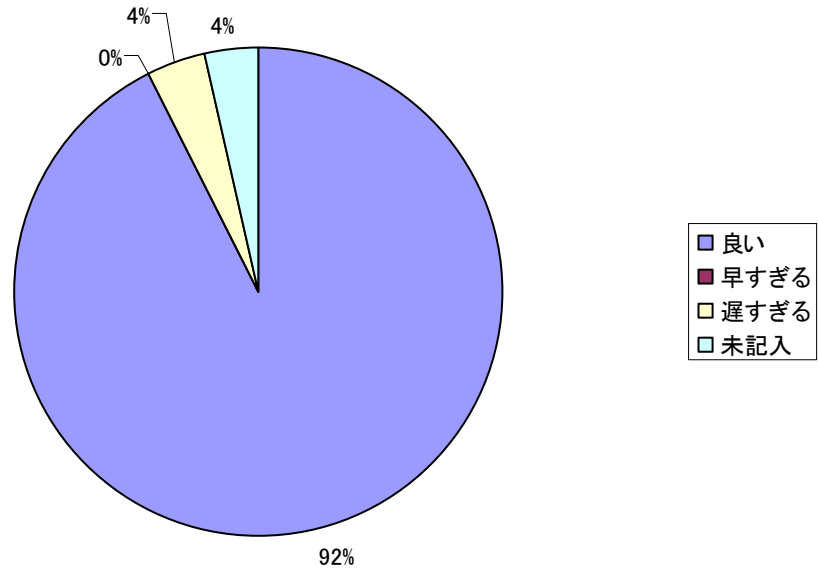


アンケート結果

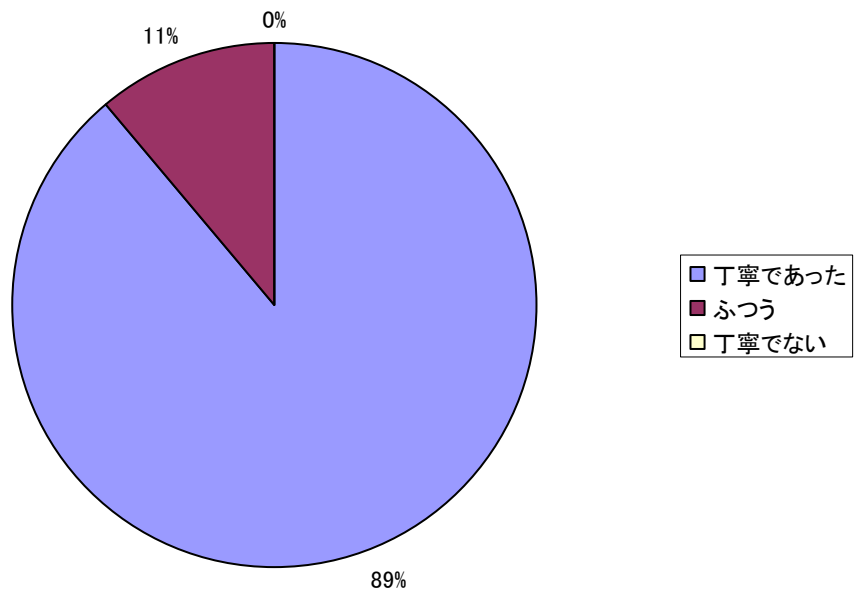
アンケート用紙は小学生・中学生・高校生・幼稚園児の32名に配布



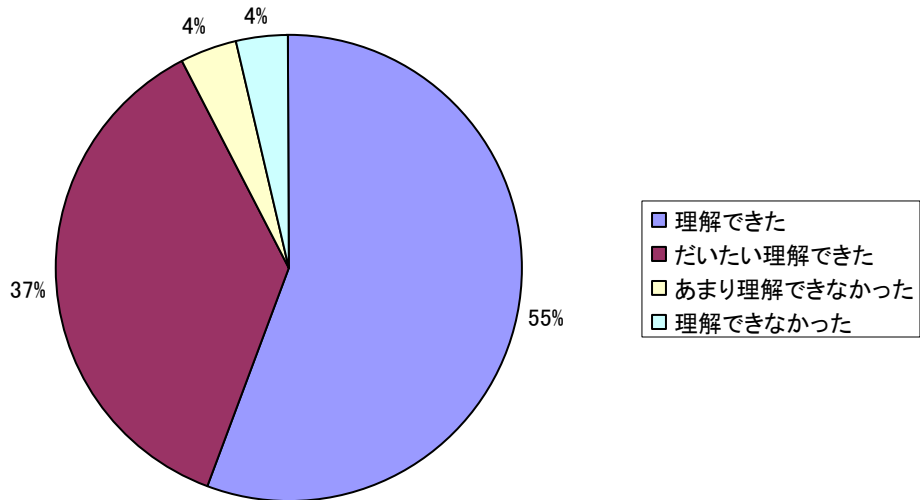
2. 話しのスピードはいかがでしたか



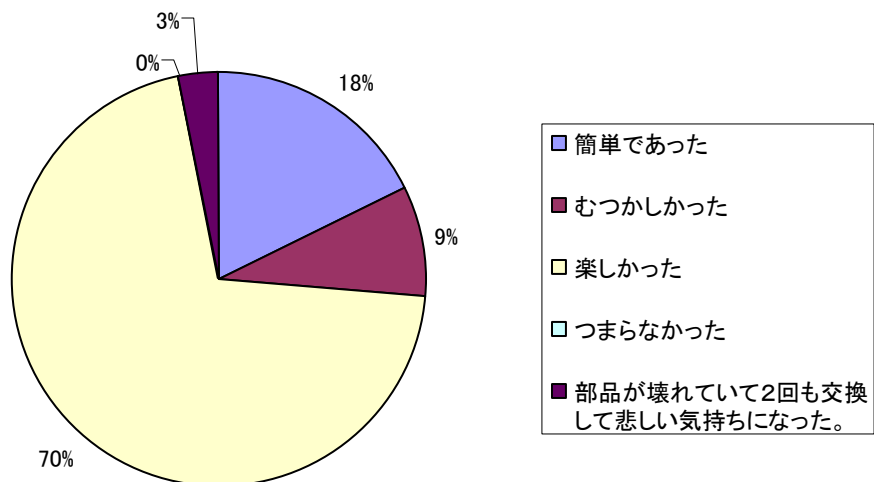
3. 話し手の説明は丁寧でしたか



4. 話しの内容は理解できましたか



5. 実際に時計づくりをしてみようでしたか



6. 講座を終えて、満足できましたか

